

隨想

8月の隨想

愛知淑徳大学交流文化学部教授
ブライチトルン



ヴィクトリア大学の研究仲間と大学食堂での昼食。左端が筆者

メルボルン市街が機体の下にくつきりと見えてきた。赤い屋根の連なりを懐かしく見下ろしていると、機長アナウンスメントが、メルボルン市の天気は晴天で気温は5度だと伝えた。昨日過ごしたホーチミン市は32度で、その前日いた名古屋は36度だった。こんなにも気温差があるのかと少し戸惑う。

最後の免税店を通り抜けイミグレーショーン列の後尾に並び、入国手続きの順番を待つ。周辺を見回していくも感じるのは人が多いことだ。世界は動いている。人々は常に移動しているということ。一方、近頃の日本の若者たちの大半は内向き傾向にあり、冒

陥心が少ないといわれている。不景気や就職難という時代背景もあるが、逆にこういうときこそ新しい変革を求める時代であろう。「龍馬が行く」時代に思いを馳せる。

日本国内なら8月は民族大移動のときもある。年に二度、盆と暮れば故郷へ戻る人、旅行者などがごった返し混雑を引き起こす。この時期、国内の飛行場も多少混雑するが、このメルボルン国際線到着ロビーは年中そうである。しかもオーストラリア人専用窓口をよく観察すると、見事な人種のるっぽであることが分かる。ここに来るたび、国と国との垣根が低くなつたというより、世界が狭くなつてきたと強く思う。

最近のメルボルンは中国やインド、またアフリカ系住民が増えた氣がする。いたる所

にそれらの国の食材専門店が見られ、新しい社会文化が形成されている。今までのイギリス、イタリア、ギリシアなどの欧米人にトルコ人、中東諸国からの人々に加え、ベトナムやその他の東南アジア系、南や東アジアの人々も増えて、モザイク社会が形成されている。ここはまさに世界の縮図のようである。

当然のことだが、食文化も豊かになつた。昨夜はイタリアカフェで美味しいパスタを食べた。今夜はローストダックを買い、娘宅でダックもどきにして食した。これにハーフボディーのフランス系赤ワインがとても似合う。世界が狭いと言つたが、実は広くて楽しい。